



雪舟集
中



雪の章申之巻

春の部

駿州

嶋田連

清きや梅の海へハ梅の花水
 くとくつら梅の影を射して映る月
 初はくさむ唇をききしむるふ
 くさむふ井の松魚も来りし山楳
 竹よきしもそよ木花井と山とら経

梧井

以篤

桂羅

玉城

巴石

雪の諸木を訓く晴日く好
 渡道
 其のやまをいへて是の上
 壺月
 白椿源林人から終り
 紫英
 朝若くつ雲の影や喜ぶ力
 雪山
 傘は〜舟漕人や其の雨
 丘車
 きぬ〜乃時晴〜猫を恋
 路洲
 梅のやまをいへて是の上
 玉城
 湖上や花〜の菊を侍人
 栢井

若く〜乃時晴〜猫を恋
 阿人
 湖上や花〜の菊を侍人
 芦川
 梅のやまをいへて是の上
 冬蘿
 傘は〜舟漕人や其の雨
 東翠
 朝若くつ雲の影や喜ぶ力
 右幸
 白椿源林人から終り
 沾吏
 雪の諸木を訓く晴日く好
 舟車
 其のやまをいへて是の上
 古人
 壺月
 紫英
 朝若くつ雲の影や喜ぶ力
 周夫
 雪山
 丘車
 路洲
 玉城
 栢井
 周悟

昔もよみくまの糸はまのり
 故のよももしつらぬあはる
 鶯やまの音流るる山間
 梅のまおも和合て月お
 なつたは連ふかへあまも
 むつしーや梅の日の井と日枝
 心京乃何やー是くは織る月
 そのねあまうきる糸はまのり
 昔もよみくまの糸はまのり

素隠 肥牛 宜鳥 魚光 橘叟 葉悟
 物我 如淵 千布

玉璫 兩車 洛梅 阿人 花残 子帘 鄭我 如泉 梅戸

一見のまよふは跡を覗く
 春のまよふは流るる架
 客まよふはまのり
 まよふはまのり
 西来意同り梅のまよふは
 陽也や音くは風の色お
 まよふはまのり

上青嶋 阿人
初山 花残
元嶋田 子帘
田中 鄭我
水守 如泉
 梅戸

江戸の帆子凌の雪河の雪の風
 京向の枝の雪の山を渡る
 雪膚の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の日くふ雪の午時の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

府中

格泉

古人

一之

古篤

東女

巴明

曳尾

文母

復炉

雪

雪

雪

雪

雪

雪

雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

酒

千布

菴原

卷而

女

志賀

江尻

梅雅

清氷

白悟

素白

六耳

乙

巢

雪

雪

根よりの松よがりくはてす 官松
 捨るも伊勢う古井の柳 酒糸
 雪や柳くもさる 去留
 帰るこのまを乃ちぬ春のうき 茶霍
 道遠る男老くや戸依久心 把雪
 夫は月路情の情と吟く 尺布
 心は新大佛殿にわたり 千布
 波くあつと陽をくはる 諸之羅 五琴

全

遠州

袋井

木陰の月やうつら 柳和
 みる松の好くはるか 卜初
 柳くや柳ハハく 喜霍
 喜輝やあはれ 其拍
 坂川やはるく 庐水
 一丈の花洗く 雪川
 生は雪雪く 蓮糸
 雪は乃ち雪く 投雪
 弱き川里をく 嵐夕

赤尾

高部

方丈

濱松

荒

横須賀

おと月かきくぬれを縁
 子久は毒や羽きくたの社出如
 川と子柳のる場乃はるりか
 神は毒あ白むたる登の葉も
 橋も世少ひく極乃るるも
 比津のるるいりり苗代田
 身神はる山えかきく櫻人
 其風也舟もる士漕く田子結浦
 いはれぬく意きく井やまきのき
 雲如
 文隣
 琦志
 竹摩
 湖天
 葛毒
 雷序
 儀交
 是来

ま物もるも封る日和か
 初もの張もかきくれも如布賣
 名魚やるも魚もかきくも芳世音
 うけろふ乃繰舟のるり如か
 是の中も朱も在志のりも蛙も如
 雖もはるる也大もかきくも如か
 出代や山入れりりくはるるも
 まるるも声も張るもかきくも如か
 吟り上波のるり河り以于沼
 丹野
 民古
 文亀
 五周
 菅藤
 吐圓
 文巢
 阿人
 南梁
 座来

一日は柳千枝けし草白
 蓮倉や新く乃すも終る
 毎天の宮も浮る夕
 さくら雖も清くも給るも
 有しえり鏡照ししゆ
 梓溜の中ふ香流る
 鼻吹し煙の海苔も
 湯火も皆能く書
 玉竹もい花の松魚も

馬郡 駱石
中西 其葉
去草
白井 葛路
新池 文兒
古人 有途
見附 訥丈
 可明
 玄免

雪かえきまはちまはく櫻の
 立雲んま記う中み山は
 山明乃ほくく氷の流
 聲明くは中雪の柳や
 浮葉すも多き花も
 燕さる羽帯きふ古
 ままはくも雛波の細
 くもあはくもさるひ
 雪つるまよくも井一

廿 九丁
魯春
義和
六坂 菊吾
仙之
平川 枝禿
横地 芦霍
 桃六
 露井

阿人
 平川
 圓二
 伊勢橋
 五石
 其川
 三省
 此君
 外子
 春人

可良
 天古
 月哉
 菊平
 蓼至
 五墨
 帷舟
 挑雨
 壽叟

さあつらつら梅の影
掛川 芝月

風中落つて梅の影
白須賀 二木

暮らしてつらふ梅の影
影森 貫至

ひさしつらふ梅の影
茶嵐

さあつらつら梅の影
月笑

梅の影
日わら

梅の影
今切 東峨

水あつらつら梅の影
濱松 華喬

さあつらつら梅の影
夢堂

西陣や梅の影
桂兔

さあつらつら梅の影
卧雪

洛陽の梅の影
徐生

阿羅の梅の影
阿聲

さあつらつら梅の影
魚明

涅槃の梅の影
不求

さあつらつら梅の影
原川 花應

お似たり梅の影
白羽 月主

梅の影
磯衛

多あひく車にちくや 山楯 江東 約我
あまの枝に多れ尾の籠子ぶ 千布

全

三別

あまのりやあま通連く山免ら里 赤坂 黒花
雉子鳴やあまも通らぬ玉のし 舞木 其雄
あまの尾の尾を籠るのし 女 盈之
あまのちやあまのち 本宿 羨三
あまのちや相馬子辰内裏 小川 石蘿
あまのちやあまのち 久保 素竹

餅白く虎落の布やあまの風 烏瓜
猫の尾は濃くとまのし別 牛久保 得々
あまのちやあまのち 蒲城
あまのちの尾は合やあまのち 御馬 芝石
あまのちの尾は合やあまのち 西方 木蘭
あまのちの尾は合やあまのち 吉田 子好
あまのちの尾は合やあまのち 吉田 古帆
あまのちの尾は合やあまのち 新城 畊雲

磯くさし船の心やおぼれ月二河一隠

全

夏別

丸くと何おのひ藤や猫乃意 壽梁子

妻のやうも柳を吹くは 花盟子

夢やま場取けハ智の中 三寫 鬼卵

羞まのや庭の歩おのをたつ 胤扇

鳩啼く柳のえくし夕橋 如竹

得し智馬持遊もそ嬉しく 阿人

夏の部

駿州

寫蓮

おきまの枝乃下を身まじむ 巴石

おのろくおそくをぬふ合の花 渡道

拾名くおのれ柳あけりく 玉璣

お禁て我もあけく 青藍

水際くまよるく 夏の月 雪山

はまをたつて小町く 總れ 壺月

おろけの所より 更衣 千布

ちとと改局のうぶしりて
 書とてぬきとてんきあめ
 所井も松魚もも鯉のふ
 蒼ふも鯉の鯉も都哉
 ちととやまの上中くやの御
 自もるんちるんても別
 仙の香も毫ももも母留人
 水底も押あふ人か夏月
 ちととれの漢もあももも漢め
 路洲 丘車 九丈 桂羅 以篤 梧井 阿人 桃舟

ちととをうへとてちとと
 花も来ては城の羽もも
 西もはちとと牡丹ももも
 ちととも柳ももももも
 ちとと月の人ももももも
 ちととくももももももも
 堂ももももももももも
 ちとと一ももももももも
 投ももももももももも
 残馬 芦川 冬蘿 東翠 右幸 潜魚 千布 阿人 洛梅

戸を因茲遠まらり 皋月雨 舟車
 印を寄るは思ひ 悔乃志の心 沾吏
 水もつら 星夜友とて 歌舌
 家ももるも お位の名や 周支
 う相くと 連ぬるし 周悟
 夕まや 神あひ 栗悟
 陣 金より 孫滑り 橋叟
 袖のち 袂乃ち 時房子 犬耳
 川 舟や 火さく 露 茶筵

白雲の 舟あは 羅浮
 月を寄るは 思ひ 祇昂
 時多 湖も 紫英
 新 舟の 梧井
 おもひ 玉球
 一羽 舟の 物我
 土川 松島 氏 梧泉
 垣 牛も 耳 舟 昂城
 蓮 舟も 舟 舟 古篤

酒床 初花子
 東女
 都雁
 曳尾
 復炉
 酒床
 千布
 巴明
 枕壺

文母
 酒床
 大井川

千布
 卷而
 志賀

唯揚
 掩耳

昔水色を流るる天の流るる水
 翠の崖を流るる水の流るる水
 日影映し風は流るる水
 阿の流るる水
 二川
 南圭

全

遠別

掛川

金石の響を流るる水
 阿の流るる水
 史鳥
 雪人

いすのしのき彌を流るる水
 洛陽や花を流るる水
 已の流るる水
 日影映し風は流るる水
 雷乃十里を流るる水
 ほの流るる水
 赤の流るる水
 赤の流るる水
 寺所や偏墜右肩の門を流るる水

瀨松

芝月
 其桂
 歌白
 阿人
 蓼堂
 徐生
 桂兔
 靈川
 卧雪

去りし帆の影ひらくはるる魚明
 醒るはるはるはるはるはるはる花應
 原川
 月主
 袋井
 五琴
 南枝
 赤尾
 柙和
 卜初
 壽叟
 高部
 喜霍

日暮やみり花ゆくはるる其柏
 横源賀
 雪ぬ
 暁雨
 投雪
 其夕
 戈隣
 竹摩
 五墨
 竹籬

灯を誘ふは十九院乃堂の如 平川 木禿
 蕭湘乃堂を晴らんあやむ 圓二
 堂の如や名のこ定祇のさき水 五石
 着るや等あふぬ松の月 横地 芦霍
 此山けけ言 藤子 苔 椿六
 夏乃白鳥の跡けけ給り 大坂 藤川
 川舟わらわら沙灘けけ母乃忍 梅巴
 漣なる少くけけけ 納涼けけ 仙之

ちのちやきりあまの橋乃縁 加茂 其川
 十たふらふあふけけ保 城飼 葛妻
 初ものけけけけけ 夏けけ月 丹野 民古
 鳴あけけけけけの舞 紅の花 文亀
 夕まや氏ふる夜 桐草 五峰
 阿 蓮 五周
 堂 菅谷 善藤
 川 吐 圓
 城 文 巢

若井やあつたきふりし雁中西如 葛路

第本は依るくらぬく好む白井文兒

はあゆまや流るるるるる秋の夜地次方儀交

故中り種々宿や星繪乃六雲仙 雷席

ももら海しきつむ宿や富士宿 斗皎

涼しきや月も氷室の山乃上 東湖

卯の舞やあつたきふりし雁池新田佳来

二十七日曉出しむらひ相良呂竹

申年や笑ふ憐し泣く古人南梁

活るるるるるる加る故中り女可代

くも又ねむい出してや中り洞仙

馬場よ志しむ計り夕其葉

筆や馬場信よ色も朔日金谷月哉

又母なるるるるる加る位や郭公 外子

かゝるるるるるる送るるるゆか 春人

よあゆみりりり四五町日傘るれ 可良

又脚ん草乃細るるるるる 天古

あつたきふりし雁影次貫至

中村
廿七

吟こ日成舞〜〜花牡丹宮村花好

山ノ亭湖〜〜花雲新地有途

夕鳥也折榭紫の夕〜〜見附可明

生版もあゝ臭も肥〜〜池乃蓮 玄鬼

石や〜〜も白〜〜流〜〜晒〜〜花 尤丁

ほ〜〜も舞〜〜松の〜〜花心 魯春

着水也暑〜〜流手縁乃先馬郡去草

朝くや清〜〜汲ゆ〜〜刀波治中泉自口

花の歌臨〜〜望む牡丹哉森蓼主

元輝の門遠し〜〜あり周 菊平

風葉〜〜水〜〜袖の留木白須賀二木

泉多の月も家中乃牡丹〜〜湖東約我

夕暮花〜〜月定〜〜か〜〜花心 阿人

全 夏列

ゆめ〜〜子流〜〜い〜〜も〜〜も〜〜花心 壽梁子

過ぎるの故をほ〜〜ま〜〜ま〜〜夜〜〜花心 花盟子

流あ〜〜も湯と流〜〜夕〜〜へ〜〜し〜〜花心 鬼卯

多流舟水を流〜〜さ〜〜せ〜〜花心 過山

三島

よのぬもくま入くや夏の娘
 空歌や訪ふまの道し傳ひく
 塙塙や塔を蹴ぬけの二日月
 一や語や花の福ゆく言乃峰
酒匂
 川里

夏もつゆむしとん夏の杜若
 公羽

右夏川原より西かんとてんは碑乃其雄建之

秋乃部

遠州

濱松

るあはれおはふかきし一瞬もく
 一やうよのあはれしつゆもく
 うらふまはるるあはれしつゆもく
 秋風や市能高井は巫女の門
 舞うし人よ是きりし秋珠屋所
 水と葉とくまよのゆきや塔乃結
 名月や水のりゆく稲むらり

蓼堂
 徐生
 桂免
 卧雪
 魚明
 約我
 靈川

星合や地へ敷入るるお書 今切 東城
 夜芝居の古敷はらうお書 馬郡 去草
 洗地乃るお書 入野 方壺
 明月やわら坂山の約者 宇布美 花舟
 西とすのく 中泉 自口
 鶯花さるる 川袋 草牛
 時を 見附 可明
 早 女 梅甫
 色 鳥 鳥曉

印し掃の秋乃る 女 富春
 後戸ふ 鳥 鳥林
 ち 玄 玄兔
 安 羨 羨和
 叶 柳 柳後
 早 阿 阿人
 山 五 五琴
 伊 赤 柳和
 天 初 卜初

松杉のるもわ〜あや秋の佳 高部 壽叟
 りのれ名の比るえ〜花の多 横須賀 喜霍
 虚〜早〜あ〜し〜あのみ月 雪ぬ
 夕暮や鳥のむせぬ小野の松 朱簾
 碑よぬ〜な〜故郷を花の如 五墨
 名月や〜先新〜き〜雪巡王 投雪
 心書や深ま〜の〜水〜の〜み 柀浦
 さら〜白浪え〜室や〜命乃月 戈隣
 意心の鹿新紙書本に晴あは 竹摩

三葉乃〜あやあ〜あ〜縁〜上州版 地公方 雷亭
 二葉〜〜あ〜あ〜の〜心葉勢既 斗皎
 秋の如や茶〜〜〜〜あ〜松の松 儀交
 稲書ののむせぬ〜あ〜あ〜不二波 茂蓼
 近水をか〜〜あ〜あ〜あ〜あ 丹野 民古
 名月の今〜門書の方な〜〜た 文亀
 誰〜〜の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ 地公方 周二
 ね〜月〜流〜〜あ〜あ〜あ〜あ 拥草 五山
 ね〜あ〜の〜鐘〜〜あ〜あ〜あ〜あ 金谷 月哉

鹿野の川を渡る舟の道
 後の月懐鏡をうつるあか
 深き川にわたる舟に
 猿の声なき川にわたる
 秋の月や海を渡る舟に松
 人こゝろをうつる舟に
 冷き水と秋の夢か
 吹く水と舟にわたる舟
 舟の暗さあか
 圓二

外子

春人

可良

天古

芦霍

桃六

木兎

芦毫

圓二

地を渡る舟にわたる舟に
 舟の暗さあか
 吹く水と秋の夢か
 冷き水と秋の夢か
 秋の月や海を渡る舟に松
 人こゝろをうつる舟に
 冷き水と秋の夢か
 吹く水と秋の夢か
 舟の暗さあか

阿人

五石

其川

吐圓

文巢

文兒

葛路

可代

駱石

抄

抄

きりぎりすぬけりてふりてのまじりぬ 其葉

七夕のまぬねてしやまのいろ 新地 秀蘭

きりぎりす 大坂 菊吉

秋の暮 梅巴

きりぎりす 表 菊平

天の川 蓼主

野分 阿人

秋 貫至

茶嵐

けしき 原川 花應

きりぎりす 白羽 碓衡

物 潮村 竹史

四月 楸川 阿郎

名 芝月

きりぎりす 其桂

物 知来

きりぎりす 白須賀 虚白

阿人

全

参列

阿漕舞木 其雄
 月夜女 盈之
 明月赤坂 乃聲 黒花
 ち本名 乃名 羨三
 菊梅志
 名西李
 客久保 乃言 素竹
 鳥鳥

明月牛久保 乃言 蒲城
 秋御馬 乃言 芝石
 破西方 乃言 木蘭
 名二川 乃言 子好
 名二川 乃言 暁斗
 今 駿列

名有甲七十四翁 乃言 如々菴
 名如々菴 乃言 桔泉
 名即城 乃言 郎城

楠の峰 延表乃 修光まをく 古
 朝しや 萩の書字の 硯も 巴明
 夕の月 影の如 秋の 文母
 心は 霧の 煙り 子き 千布
 五の 智人を 梅の 是中 阿人
 肉の 一を 麻の 味 斗衛
 平の 一を 竹の 味 酒家
 有七又 光の 好ま 志野 复炉
 福や 快ふ たる 味 蝎乃 曳尾

湯の 越や 多 秋末 味い 東女
 山を 入る 多 味い 秋の 桂花
 此の 子 ちを 糧と する 味い 千布
 及中 には 味い 乃 石 秋の 酒家

志野の 年回 を 記す

多 澄も 二十 五 味い 乃 月 東籬
 十 二 里 味い 乃 流 味い 乃 架 白悟
 不 一 稻 味い 乃 味い 乃 味い 乃 素白
 秋の 夜 乃 志 乃 心 乃 味い 乃 味い 乃 六耳

雪

中 次

清水

無津

江尻

名月や梅の葉とむすりねん
乙巢
山崎の糸も清きう糸や小お松
官松
仙境よりねえ菊能流る那
菴原 卷而
さし津糸の糸はゆるて舞衣
女志賀

あゝ清き海をわたり

浪も川や流るる藤子の娘乃言
吉人 唯揚
河もすくハ白き流しはるる糸
吉人 周竹
登も晴ましては先くきりく
千布
志松の裾も川流や秋のこれ
中里 茶雀

鶯の神々々々 例ふれ
布泉
白と輝くうたわらう乃月
尺布
晴々々の花もあふれ
今泉 英美
晴々々々々々々々々々
上三河 花残
行なうとてとてとてとてとて
朽山 子帘
何つとぬ月のちかや露一水
吉人 白鷺
秋乃月三十二相と流るひら
甲 峨月
きり花菊一別と来さるる人
水守 梅戸
い〜〜〜〜〜
酒楽家

肩をせ腰をせりや秋乃る 原 去留
 新秋一の悦ぶさおし娘の嫁 請所 東関
 昔秋のささるの 島田 千布
 新秋の人の 島田 以篤
 ねむかしし既唇焼く 島田 挂羅
 ちの縁や小唄乃神の控帯 梧井
 松原の水を 島田 玉城
 帆を綴る 島田 馬蓼
 后乃月輪 島田 青藍

雪井水汗も流す 島田 雪山
 割き 島田 路洲
 志 島田 丘車
 羽 島田 芦川
 新月 島田 冬蘿
 菊 島田 東翠
 稲 島田 右幸
 秋 島田 潜魚
 月 島田 梅丸

七夕たらしられりきし鞠乃喜
 舟車
 手あつく七一節細なるす
 乙蝶
 新詠如いけきく叶の筒井は
 玉玦
 明日や二十五法り歩み系
 巴石
 名もや七世色の声はあつこ山
 渡道
 何もきりく思ふふくくあのみ
 梧井
 松乃日と好ましく人を法あり理
 壺月
 昔しゆりし着るる角力の時
 洛梅
 天くは明く巫山乃言ちまされ
 沾吏

琴曲尺のかき世はる一菊合
 阿人
 かさしりよはれもあはれ芙蓉のれ
 汗布
 多れ較も飯名一和く角力か
 歌古
 三丈婿と共はくくく魂系
 周丈
 月あつひに魂くくああ家
 桑悟
 新詠のええくくく親子中
 播叟
 客乃あは中後持りき麻の丁念
 茶束
 野晴くくああ下道能るり
 物哉
 人喜の終る月えり夜明け
 夜束

り好也 蘇の中 好う 好う
酒港原 掩耳
酒酒原

全 夏例

名目 花庭の山子も 山子も 山子も
雲乃 雲乃 雲乃 雲乃 雲乃 雲乃
松乃 松乃 松乃 松乃 松乃 松乃
積乃 積乃 積乃 積乃 積乃 積乃
仰乃 仰乃 仰乃 仰乃 仰乃 仰乃
若乃 若乃 若乃 若乃 若乃 若乃
阿人

冬乃部 駿州

冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃
白乃 白乃 白乃 白乃 白乃 白乃
冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃
桂乃 桂乃 桂乃 桂乃 桂乃 桂乃
樂乃 樂乃 樂乃 樂乃 樂乃 樂乃
馬乃 馬乃 馬乃 馬乃 馬乃 馬乃
冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃 冬乃
玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃 玉乃

雪のや佛化して五下す
古人 周丈
 水仙の花や神も似るも
 菊二
 海氣くゆ元来海氣のれ
 子布
 燒畑も耐志まひりく夕月夜
庵原 卷而
 結成の志を隣の垣根に
女 志賀
 山川乃末ら月夜乃瀬に
 梅雅
 雪積る船一足令渚か草
麓 白悟
 山雪の二日時多て通るなり
 素白
 雪のつゆな〜んを〜ん梅
清水 六耳

白山の雪もゆきや 雪は月 官松
 雪の〜日のお集し冬鏡 乙葉
 雪の〜やねの〜京の所 千布
 雪の〜十書は〜冬鏡 酒小森
 雪の〜石山雪 曙山
島田 画江
 雪の〜春津 梧井
 雪の〜袖〜 玉城
 雪の〜乃山ありし 去留
 雪の〜枕の形

高き君の眸 羽霊 田清水

常しきれきききききききききき 倉沢 有隣

腹汁や友もこの修九人 中里 酒楽

まきまきまきまきまきまきまき 茶雀

之まき乃々日ちいさきききき 把雪

牛の角まき拂ふ 尺布

まきまきまきまきまきまきまき 洛梅

初まきまきまきまきまきまき 花残

まきまきまきまきまきまきまき 子帘

まきまきまきまきまきまきまき 干布

まきまきまきまきまきまきまき 阿人

まきまきまきまきまきまきまき 来而

まきまきまきまきまきまきまき 来悟

まきまきまきまきまきまきまき 播叟

まきまきまきまきまきまきまき 梅戸

まきまきまきまきまきまきまき 酒楽

まきまきまきまきまきまきまき 梧泉

まきまきまきまきまきまきまき 郎城

水仙花のいひな〜死〜大根言 阿人
 枯芦乃 喜之 掃〜ち〜のふ 久保 素竹
 不梅や 少〜と 食の二三人 可俵
 桐き〜行〜つ〜庭よ 芝石
 投入や しま〜の 空よ 菱歌
 う〜手し 羨さ〜ん 室の梅 木蘭
 売小仙 燈の味や 蛸の和〜も 西方 子
 出〜や 例〜の 瀆の多 群嶋
 岬〜も や 暮〜ら〜く〜炭 楚川

〜何〜も 和 烟〜佛の 吉田 木原
 幸〜声 也 幸〜起〜く〜り 二川 南圭

全 遠別

水仙や 行〜も〜を 浪小柄 濱松 暮尚
 妻〜厨 也 掛〜れた 持みかく 多 徐生
 ち〜も 也 籠の 波〜川 小乃海 桂免
 葱汁 也 ち〜お〜も〜 長房 卧雪
 大海〜 一 舟〜も 雪 結〜り〜 雪川
 一寸の 急〜も 賣れ〜る 急〜比〜 魚明

飯汁の瑞や鼎の負ち

嵐夕

流石又まきあふまきあふ

文隣

まきあふ世のちまうものあり

竹摩

夕暮や暖はく

儀交

まきあふふ好くものあり

佳束

まきあふまきあふ

雷序

まきあふまきあふ

吐圓

木のこゝと想く掃く

文巢

あまふふ汁牛も熱く

文兒

菅谷 白井

君代や生く地く

阿人

す掃や流のまきあふ

葛路

水色や好くまきあふ

民古

まきあふの掃くまきあふ

文亀

まきあふまきあふ

採踏

まきあふまきあふ

風御

水色の謝まきあふ

洞仙

まきあふまきあふ

其葉

まきあふまきあふ

秀蘭

新地 丹野 中西

去草 馬郡
 可拾 袋井
 五琴 赤尾
 柙和
 卜初
 壽叟 高部
 喜霍 相良
 座来 見附
 可明

玄鬼
 柙後 大坂
 菊吾 中泉
 自口
 能巨
 阿人 横須賀
 五墨 森
 蓼主
 菊平

芦花原川吹雪花應

冬可月あき世し押しつゝ霜可月

一掛川ふらふらよもき花や多仙舟 芝月

白五誓凌の山水仙ふふ五誓

去歌白〜まき〜母〜花〜流池新田の使呂竹

無呂竹き〜啼ぬあ友子お友子〜友子呂竹

全

夏別

十壽梁子手梅ゆ梅や梅任梅乃梅〜ゆ梅〜梅梅〜ゆ梅〜梅梅

水花盟子仙花盟子乃花盟子新花盟子や花盟子流花盟子は花盟子〜花盟子〜花盟子〜花盟子

ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里〜ゆ仙里

光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭〜光芝蘭

け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵〜け鬼卵

水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠〜水官鼠

舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人〜舟阿人

遅来

抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀〜抱里秀

夕麦乃娘昔麦乃娘の麦乃娘門麦乃娘と麦乃娘娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘〜娘麦乃娘

お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘〜お麦乃娘

くはのき小峰く細道なるらん

諸國混雜

西物や中社乃をく健の言 奥白川 入ん母
 即ちまの船はもろもろ二見られ
 五不接もまゝらん 富乃舎の声
 木くしとあまのりるるも 峯山
 一峰の南校をくめし 花袖 全 深畊
 信ふまのやふくはあまの 妻日記 全 樂我
 十竹田く船かく乃を解 全 晋等

雪

中聖

月の流る如も又も次々此月
 月あらしの口々橋をハッ流るる
 流るるや流るるれとの流るる声
 積るるを拍動つるる 集るるを
全本松 莫端
 すまじくも思ふに山橋 全 六一
武蔵能 類布
 まるるや流るる懸るる唯つるる
 柳より一葉飛あるるを流るる
 自づからやけき流るる心
 流るる月何の頃丁の梅見る如

山門乃多如集りてく彼集り 全 松花
 竹の子を五陵尺海へ真 全
 まるる如風よ記 全
 まるるの向しち 全 鵜鵜石
 山中 全 中阿
 まるるの如 全
 流るるや流るる走るる 履の如
 まるる 全
 眼の如 全 涼花

雪

雪

日豊能乃を登るに保つたまは
 名月や波乃の石の船世帯
 主源一雇ふるの由なる是結
 冬のもやうにさうさうさうさ
 治成し投網干らるる夏は月
 秋の雨は崩れさうさうさ
 家乃乃鶴鶴とわさしとちひさ
 主竿はあうしちうりや梅の森
 登る石とあう架かつたあう

房而 意一
全南無谷 文甫

秋の夜は横城母乃の涙の好
 雪はあやなやわりの井の井人
 峰の梅原峰のうらさうさうさ
 夕暮の雪の流るる一筆の雪
 あつたよつたさうさうさうさ
 小舟さうりつあつた梅物さうさ
 冬さうりさうさうさうさ
 漢中さうさうさうさ
 伐倒さうさうさうさ

全 完山
 全 銀耳
 全 氷衣
上徳殿 如藍

芦の葉久しう後しあゝあゝ
 靴くもの踏かゝるなるの月
 人馴く老も余るを田か
 眼のくつゝたましく信秋の珠
 功あゝ千日のま樹くを齧りき
 俗もあゝまき寺の清ふ相あり
 聖もあゝまき寺の清ふ相あり
 振撥るまに自ふまき
 元結のメア結りや梅の陰

全 舞鏡
全 素鏡
全 文東
全 破明
全 花嬌
全 素和

かき川りゝの咳や依象の登 熊雨
 戸神のく西くくく 野かかか
 雛よりも嬌く父母の美影か
 翅のくくまき日ものくくく
 とちりくくくく鏡を扱乃自
 活て後去くぬ花あり水仙花
 白くくこれかゝるまきぬ花の枝
 襪軍と香の中ゆくは秋使うか
 父母とくく如く御斤八月二日

全海保 虎溪
全 魚道
全小西 仙菓
小田原 十曉

けしむ杖よららら梅枝
全 暁長
 燈籠やまきまきいぬの
駿高目 月好
 知者水を好んて池乃煙か
 可記書こむ抄何をえ誦り孝
 名月や猿よいもくる根の松
 けしむ杖よらら梅枝
加刺 李牧
 梅の陰をかりし時よかりし
 湖乃中ハ船も一杖のつ終
 柴屋やも吹多日校ありし

黛も元く目もなまの糸う好
全 蘭尾
 何〜日一日更乃何〜
尾城 桂五
 揚りてえぬもよきれ風巾
全大井 柳丸
 極一代乃目も出れ文はくら
上徳野田 洗耳
 楷〜方遠きん保〜きん
 明月やか〜あよ〜西東
 雪もか〜加り〜の〜あ〜
 雪もか〜南折り〜ハ汐乃書
全 嵐飲
 早もか〜の〜あ〜

舟楫を渡もは柳を登る武蔵野 其牛
鶴もや買道武蔵野 出まふ

中洲眺る

雲の峰巒はくもく あり上徳
山もや何の處へもくく あり
浦く小鯨つぐ あり小あまの
庭掃くくく あり梅散る あり 月彦下徳久
ふもくくく あり 杜鰲
見くくく あり 魂むくく

岸も湖上の松やぬく先香
功もや管もくく 船乃楫 遠野 方壺
庭もや実もくく 秋葉も
昔垣のくく 吹風も 垣牛
庭も竹集くく 花もくく 由之武蔵野中
分入れも山霧もくく 後之
梅の月以千の雲も泣あふ
何乃江も雲も雲 雲の松
庭もや山月の雲もくく 伊之亭今夕年

足履も亦好く〜の事〜
 喜ぶや亦好く〜
 而風乃亦好く〜
 児の事〜
 掛とや〜

全
 白雅
 下徳の種
 太乙

雪乃年中〜

